

かたくり

町内会だより

本所1丁目

2020年
(令和2年)

12
月号

- 2P 令和2年を振り返って
ランタンまつり開催
- 3P ランタンづくり講習会
デザイン担当紹介
町内会主催親善ゴルフ大会
本所人
- 4P 本所今昔物語
新人紹介コーナー

令和2年を振り返って

令和2年12月

町内会長 佐野 守利



今年は新型コロナの未曾有の影響下にありながら町内会へご理解ご協力をいただき心から御礼申し上げます。

さて、2月中旬から新型コロナにより、社会経済等あらゆる面で、生活の見直しが余儀なくされました。地域連携の大切な要素ともいえる密接なお付き合いが困難となり、どうしても人の生活は萎縮して内向きにならざるを得ませんでした。

こんな状況の中で、心しなければならぬことは、この地域に住む人達の生活基盤のひとつとなっている町内会活動を継続する力を保つことです。今年は「地域みんなであそんで楽しむ」というイベントが次々に中止となって地域の子どもたちに楽しみや感動を与えることが出来なくなってしまいました。

そんな中で秋のランタン祭は、広く宣伝して大勢の人に来ていただくことができなかったものの、コロナ対策に配慮しながら「コロナ沈静」を願い、皆で協力して実施することができました。

来年以降もコロナ問題は引き続きあらゆる面に影響を及ぼすと思いますが、町内会活動やイベントにおいては「Withコロナ」を基本に置きながらも実施できることは行っていきます。

人間の強みは「知恵を出し合い協力する」「お互いを思いやる」ことだと思っています。そんな人間の強みを生かして、より安心安全に生活ができること。

そんな年が来ることをお祈りしたいと思います。

ランタンまつり開催

新型コロナウイルスの影響で昨年まで春と秋に実施してきた「ランタンまつり」と「こどもまつり」は春の部は中止となりましたが、秋の部は新たに西コミュニティ主催、本所町内会を共催とし、ランタンまつりに特化し名称を「ヒノミヤの夜」として9月26日に開催されました。

当初、朝日野宮神社境内で実施する予定でしたが台風による天候悪化によって更に変更となり、本所会館一階での開催となりました。

当日は西コミュニティ関係者、町内会役員などが午後4時からランタン設置などの準備を行い、午後6時に全員が玄関前に集合し佐野西コミ会長兼町内会長のあいさつの後一斉に点灯され、まつりが始まりました。

町内回覧されたポスター。プロのデザイナーが制作したかと思わせるほどの出来映えです。

制作 速水美保
さん



本所会館一階の装飾



本所会館玄関のランタンによる装飾



コロナ収束、平穏を祈って

ランタンづくり講習会

9月12日(土)午後1時30分から本所会館でランタンづくり講習会を速水美保さんを講師に開催されました。参加者は西コミ、町内会役員など約20名でした。



大きめの風船を膨らまし、その外側にボンドに浸した紙紐を巻きますが、紐が外れたり最悪風船が割れたりと悪戦苦闘を繰り返しました。

苦勞の作品30個が完成。後日紐が乾燥したら風船の空気を抜いて取り去ります。



デザイン担当紹介

毎年ランタンまつりのデザインを担当された速水美保(はやみみほ)さんにお話を伺いました。

速水さんは本所1丁目にお住まいでご主人と三歳になる男の子供さんとの3人家族です。



(質)今年はコロナという特殊の環境下での開催でしたがどのようなお考えで企画されましたか？

(答)コロナ禍で社会全体が暗い雰囲気でしたのでランタンの明かりがこの地域の希望の光となればと思ってデザインしました。

(質)毎年多くの来場者に感動を与えてきました、最初はプロのデザイナーが担当したのかとも思いましたが速水さんのデザインとの馴れ初めは？

(答)子どもの頃絵を描くことは好きでしたが特に専門の勉強したことはありません。

社会人になってから旅をしたり流行に触れる中で空間デザインに興味を持ちました。そのような時に朝日野宮神社での催しのお話を頂いて自分なりに研究してデザインいたしました。

町内会主催親善ゴルフ大会

去る10月11日(日)下田城カントリークラブにおいて本所1丁目町内会主催第38回本所1丁目(秋期)親善ゴルフ大会が開催され小林拓磨さんが優勝されました。

小林拓磨さん

ゴルフは20年程前に始めたのですが、長く休んでいて、本所転居を機会に再開したものです。

今回はハンディキャップと運に恵まれて優勝させてもらいました。



上位入賞者(敬称略) 5/17

1. 小林拓磨さん
2. 香田和則さん
3. 武田操さん
4. 藤崎領さん
5. 井上義弘さん

本所人(ほんじょじん) 齋藤榮作 さん

今回から特別な趣味や活動で特徴ある人物紹介「本所人」を掲載します。トップバッターは昨年度3区区長を務められた齋藤榮作さんです。現在熱心に取り組んでおられる「スポーツ吹矢」について取材しました。

齋藤さんは今町ご出身で本所に転居されて27年、見附スポーツ健幸吹矢クラブ会長、見附カーリンコンクラブ会長他多くの公職を務めておられます。



この競技を始められたのは3年前に市のゆうゆうライフ講演会に参加したのをきっかけに市から勧められて始めたそうです。



活動は月2回ネーブル見附を会場に会員の皆さんと競技を行うほか、今町公民館でも地域のクラブの皆さんと競技をされるそうです。

残念ながら今年春からコロナの影響でネーブルでの活動は休止していて、状況が許せば来年1月から再開したいとのことでした。

齋藤さんによれば、「スポーツ吹矢は高齢の方でも簡単にできるスポーツであること、更に心肺機能を高めるなどの効果があるとされていますので町内の皆さんからも是非参加頂きたい」とのことでした。

本所今昔物語 「ロケット公園」

「ロケット公園」を知っていますか？

それは本所南児童公園の愛称でした。この公園は昭和57年に周辺の農地が宅地として整備されるときに合わせて市が建設した公園です。開発された住宅地は「神明団地」と呼ばれていて、長く本所にお住まいの方にお聞きすると「場所は定かではないけれども神明様があった」このことからこう呼ばれるようになったそうです。※神明様の歴史については次号以降に広報します。

さてロケット公園という愛称の元となった理由は下の写真にあるようにロケット型の塔を備えた遊具があったことです。非常に人気があって遠くから遊びに来る子どもたちが大勢いて、皆ロケット公園と呼んでいました。



塔から鎖製の橋で地球儀のような遊具に乗り移ることができて子どもたちが楽しそうに遊んでいました。2機の構造物ともジャングルジムのようなもので塔の外側から天辺まで登る元気な子どもがいましたが、民家の一階屋根よりも高いので大人でも少々怖かったことが思い出されます。



そんなロケット遊具が今から10年くらい前に老朽化して危険とのことから撤去されて現在の滑り台に換わってしまいました、残念ですね。

ロケット遊具はなくなりましたが、いまでも一部の人達からはロケット公園と呼ばれているようです。ロケット遊具で遊んだ子どもたちも最年長は40代後半、最年少でも中学生くらいになっていると思います。時の流れが早いとつくづく感じる一コマです。

現在4月から11月まで本所親和会の皆さんが市の委託を受けて月一回草刈りなど清掃を行っています。綺麗に維持管理された公園には毎日子どもたちが訪れるほか夏休みには小学生のラジオ体操の会場になったり、平日には小学校や保育園などの団体が訪れることがあります。

新人紹介コーナー「よろしく」「ようこそ」

1丁目2区地内では田んぼや畑だったところが宅地開発され、次々と戸建て住宅が建ちはじめています。

今回はそこに新築・転入されたご家族を紹介します。なお、取材にあたりご協力を頂いた区長さんにお礼を申し上げます。

今回ご紹介するご家族は今年10月に転入されて私たちの仲間入りをされた「大橋利行さん」ご一家です。ご一家は利行さんと奥様そして中学1年生のお嬢さんと三歳の息子さんの四人家族です。



(質)以前はどちらにお住まいでしたか？

(答)長岡市(旧栃尾市)から参りました。

(質)本所に新築された理由はなんですか？

(答)駅に近いことと、夫婦双方の実家や職場への距離が丁度よかったことです。

(質)実際に住まれてみて感想はいかがですか？

(答)未だ住んでから間もないですが落ち着いた環境で過ごしやすいです。

(質)行政や町内会に求められる(期待)されることはありますか？

(答)少しずつ見附での暮らしに慣れていくところですが、全ての年代の人が安心して楽しく暮らせるようにしてほしいと願っています。

(質)地域活動などへの参加のお考えはありますか？

(答)町内会の行事など積極的に参加して、この地域のことを知りたいです。

表紙 1区 佐野庸雄(つねお)さん宅庭の雪囲い

いつも散歩で通る場所に綺麗に管理された庭がある。春はツツジが美しく、季節毎に施される樹木の剪定も見事。また晩秋には荒縄を使った雪囲い(雪つり)が素晴らしくつい見とれてしまった。持ち主の佐野さんにお聞きすると、子どもの頃から見よう見真似で覚えたとのことで全て自分でされるそうだ。



発行元

新潟県見附市「本所1丁目町内会」

担当 野水英男 TEL62-1542